

2022 年度

環境活動レポート



®環境省

エコアクション21

認証番号 0012145

対象期間 2022 年 4 月～2023 年 3 月

メルテック株式会社

作成日 2023 年 8 月 8 日

1. 組織、事業の概要	2 頁
2.対象範囲	11 頁
3.環境方針	12 頁
4.環境目標及び環境活動計画	13 頁
5.環境目標の実績・評価及び次年度の取り組み内容	15 頁
6.活動実施状況の紹介	18 頁
7.訓練の様子	20 頁
8.環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無	21 頁
9.代表者による全体評価と見直しの結果	22 頁

1.組織、事業の概要

(1)会社名及び代表者氏名

会社名	メルテック株式会社
代表者	代表取締役 鈴木智也

(2)所在地

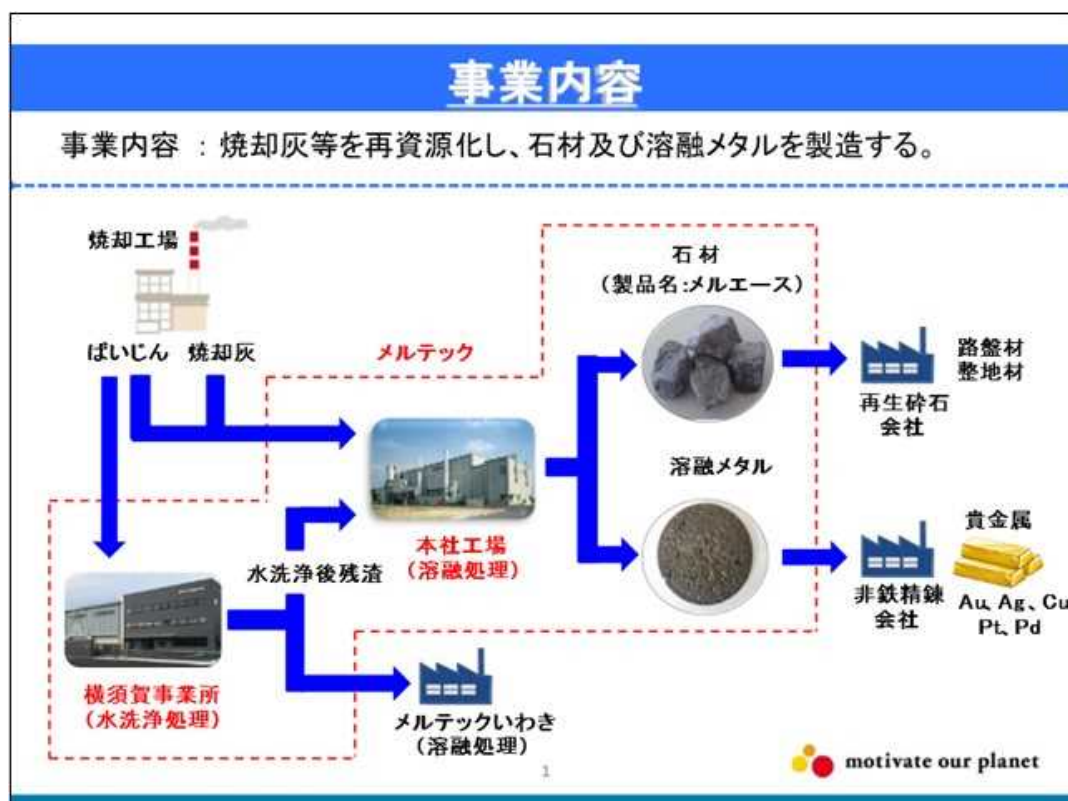
(本社工場) 〒323-0158 栃木県小山市大字梁 2333 番地 29 TEL: 0285-49-1080 FAX: 0285-49-1084 HP http://www.dowa-eco.co.jp/MLT/ (横須賀事業所) 〒240-0101 神奈川県横須賀市長坂 2-2-1 TEL: 046-854-4714 FAX: 046-854-4715

(3)環境管理責任者及び連絡先担当者

環境管理責任者 (本社工場)	製造部 部長 津谷健一 E-mail: tsuyak@dowa.co.jp
横須賀管理責任者 (横須賀事業所)	横須賀事業所 所長 錦織吾郎 E-mail: nishikog@dowa.co.jp
EA21 事務局 (本社工場)	川俣博之 E-mail: kawamath@dowa.co.jp
EA21 事務局 (本社工場)	伊沢吉成 E-mail: izaway@dowa.co.jp
EA21 事務局 (横須賀事業所)	笠松寿規 E-mail: kasamatt@dowa.co.jp

(4)事業内容、経営理念および 2022 年度トピックス紹介

廃棄物の再資源化に関わるメルエース®及び貴金属原料の製造



メルテックでは、一般廃棄物および産業廃棄物の焼却灰等を溶融処理しています。そこからメルエース® (メルエース®とは焼却灰を高温で溶かした「人工石」で路盤材、整地材等に活用)、溶融メタル(非鉄製錬原料)を回収、リサイクルしており、環境に優しい処理といえます。

横須賀事業所は、本社工場の前工程として、ばいじんの処理(水洗浄による塩類の除去、減容化)をしています。(2023 年 2 月 6 日横須賀事業所拡大認証済み)

(5)事業規模

		本社工場	横須賀事業所
設立		1995 年 6 月 22 日	2021 年 6 月 1 日
資本金		90 百万円	
売上高		2,417 百万円	
社員数		47 名(2023 年 3 月 31 日現在)	16 名(2023 年 3 月 31 日現在)
敷地面積		20,415m ²	7,422m ²
処 理 量	一般廃棄物	35,085t	10,674t
	産業廃棄物	7,180t	0t
	合 計	42,265t	10,674t

(経営理念)

経 営 理 念

- 一、 都市鉱山の製錬所として資源循環型社会形成に貢献します。
- 二、 常に創意工夫を凝らし、顧客に安心と満足を提供します。
- 三、 社会規範を遵守して、地域及び市民に開かれた会社運営を行います。
- 四、 会社の発展と従業員の幸福とが相利共生し、各人の能力が充分に発揮される魅力ある会社を作ります。

メルテック株式会社

(トピック一覧)

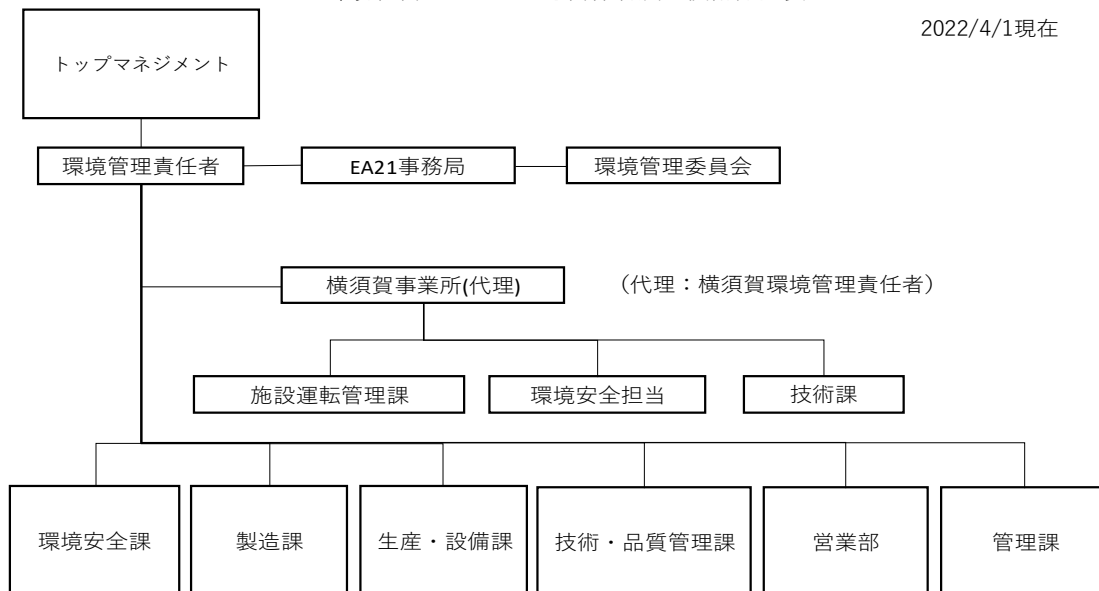
トピック	年月	項目	効果
設備更新・導入	2022 年 5 月	徐冷設備更新	電力削減
燃料変更	2022 年 8 月	二次燃焼バーナー燃料 変更	CO2 量削減 (灯油→再生重油)
燃料部分変更	2022 年 11 月	溶融炉燃料の一部変更	CO2 量削減 (コークス→アノードバット)
取り扱い方法 変更	2023 年 3 月	自社ばいじんの横須賀 での洗浄処理(減容化)	外部委託物削減

(6)組織図 別紙 1 参照(環境経営システムの運営体制及び役割分担表

別紙 1 組織図

環境経営システムの運営体制及び役割分担表

2022/4/1現在



関係者の役割と責任

トップ マネジメント	・環境管理責任者を任命する。 ・経営における課題とチャンスを整理し明確にする ・環境経営方針を制定する。 ・推進に必要な要員、技術、資金等の資源を準備する。 ・環境経営システムに必要な文書及び記録を承認する。 ・環境経営システムの全体の評価と見直し・指示を行う。
環境管理 責任者	・環境経営システムの取り組みの実行責任者として活動を推進する。 ・環境への負荷及び取組の自己チェックの実施リーダー ・環境経営目標及び活動計画を策定し、社長の承認を得る。 ・環境経営目標及び活動計画の達成状況や実施状況の確認と評価を行い、社長に報告する。 ・環境関連法規の取りまとめ、最新版の維持管理及び遵守状況の確認をする。 ・外部からの苦情や要望を取りまとめ、処理する。社長に相談・報告する。 ・必要な文書の作成、記録様式の作成を行う。 ・代表者による全体の評価と見直しのための情報をとりまとめる。
E A 2 1 事務局	・環境管理責任者の役割を補助する。 ・環境経営目標管理のデータを取りまとめる。 ・環境管理責任者と共に環境関連法を取りまとめる。遵守状況をチェックする。
部門推進 責任者	・部門ごとの活動計画を策定・実施し、実施状況、達成状況を把握し、環境管理責任者に報告する。必要に応じて改善する。 ・部門ごとの教育訓練の実施リーダー ・環境苦情や問題が発生したら環境管理責任者に報告し、必要な処置をとる。
従業員	・環境活動計画の実行担当者として活動する。 ・システムで定めたルール、取り組み事項を自発的、積極的に実施する。 ・自身の業務が環境改善とどの様に関連するか自覚し、環境への認識を高める。

(7)事業許可

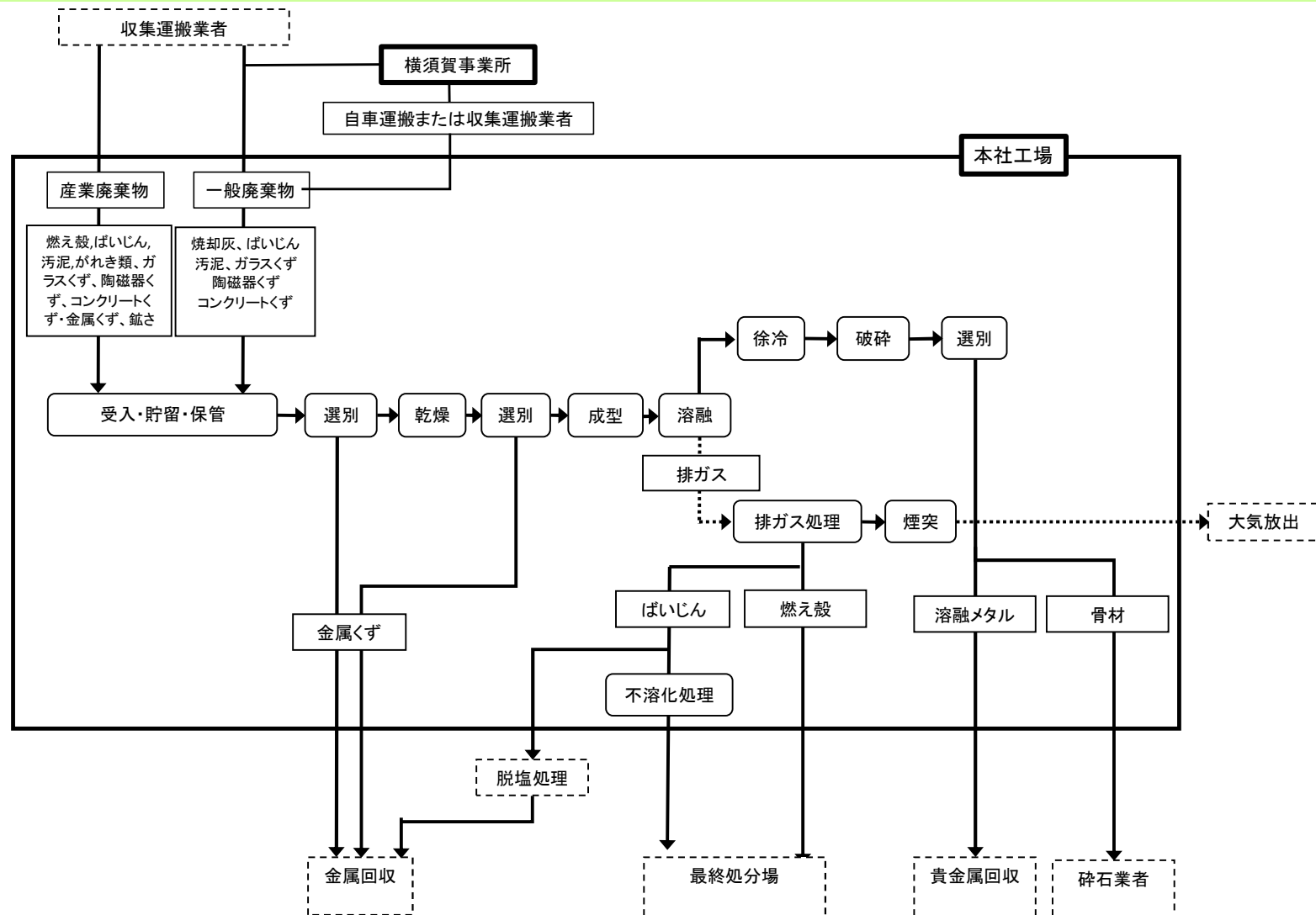
本社工場	
・一般廃棄物処理業	
許可番号	小山市指令環第 2-39 号
許可の年月日	令和 3 年 4 月 1 日
有効期限	令和 5 年 3 月 31 日(令和 7 年 3 月 31 日まで更新済み)
許可品目	・焼却灰・ばいじん・汚泥(廃棄物焼却炉の排ガス処理施設から排出されたものであって、有機性汚泥を含まないものに限る。)ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず・金属くず
許可数量	150.0 t/日
・一般廃棄物処理施設変更許可	
許可番号	0129011
許可の年月日	平成 30 年 3 月 16 日
施設の種類	ごみ処理施設(溶融固化)
・産業廃棄物処分量	
許可番号	00920151268
許可の年月日	令和 3 年 11 月 1 日
有効期限	令和 10 年 10 月 31 日
営業の種別	中間処理(溶融固化)
許可品目	・燃え殻、汚泥(廃棄物焼却炉の排ガス処理施設から排出されたものであって、有機性汚泥を含まないものに限る)、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、鋳さい、がれき類、ばいじん
許可数量	150 t/日

横須賀事業所	
・一般廃棄物処理業許可申請書	
許可番号	第 127 号
許可の年月日	令和 3 年 6 月 1 日
有効期限	令和 5 年 5 月 31 日(令和 7 年 5 月 31 日まで更新済)
事業範囲	(i)事業の種類 一般廃棄物処分量(中間処理、洗浄) (ii)廃棄物の種類 一般廃棄物(焼却灰、ばいじん)
事業の用に供する施設	
種類	洗浄施設
処理能力	150t/24h

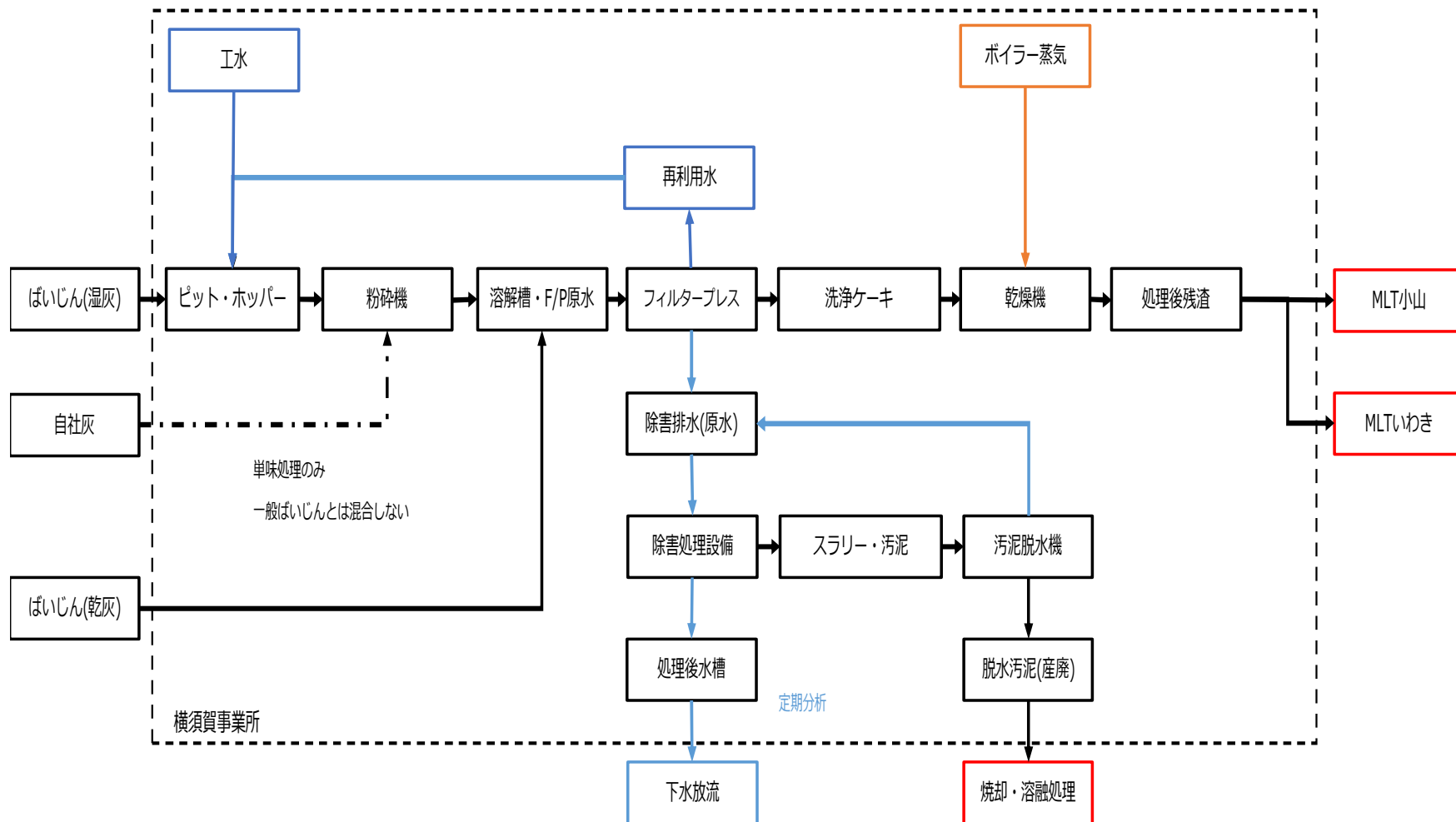
(8)施設等の状況

	本社工場	横須賀事業所
(i)処理施設の種類	溶融固化施設	水洗浄施設
(ii)処理する廃棄物の種類		
一般廃棄物	上記許可品目に準ずる	焼却灰、ばいじん
産業廃棄物	上記許可品目に準ずる	
(iii)処理能力	150t/日	150t/日
(iv)処理方式	コークスベッド方式溶融炉	受入、水洗浄、ろ過洗浄、乾燥、搬出設備を含む
(v)処理フロー	* 別紙 2-1 参照	* 別紙 2-2 参照

別紙2-1 処理フロー(本社)



別紙2-2 処理フロー(横須賀事業所)



2.対象範囲

対象事業所	本社・本社工場、横須賀事業所
事業活動	一般廃棄物・産業廃棄物の中間処理業、リサイクル製品（人工石・貴金属原材料）の製造・販売

3.環境方針

環境経営方針

基本理念

メルテック株式会社は一般廃棄物及び産業廃棄物の焼却灰等を原料とするメルエース[®]及び貴金属原料の製造を通じ、持続可能な資源循環型社会の構築に貢献します。

その際の事業活動、製品及びサービスが環境に与える影響を常に認識し、環境負荷軽減を経営の重要な課題として捉え、環境に配慮した活動を基礎とした環境経営を継続的に行っています。

活動方針

1. 環境目的、目標を定めて環境管理活動を推進すると共に、定期的に見直しを行います。
また環境マネジメントシステムの継続的な改善を図るため、従業員の能力及び最適な技術を活用します。
2. 環境関連法規及び自ら同意した要求事項を順守し、汚染の予防に努めます。
3. 事業活動が環境に影響を与える中で、特に以下の項目について優先的に環境保全を推進する必要性を認識し、活動します。
 - 3-1. 使用原単位改善による省エネルギー・省資源の推進
 - 3-2. 自社排出物削減によるリサイクル率の向上
4. 地域と密着した社会環境整備・保全の貢献活動に努めます。
5. 当社で働く全従業員にこの環境経営方針を周知するとともに、環境に対する意識向上を図るため、適切な教育及び広報活動を行います。
6. この環境経営方針は外部からの求めに応じていつでも開示します。

2022年4月1日
メルテック株式会社
代表取締役 村上 学

4.環境目標及び環境活動計画

環境目標として下記 8 項目を選定しました。

中長期目標及び活動計画書を作成して活動を行いました(別紙 3)。

また進捗確認は 1 回/月の環境管理委員会で実施しました。

(本社工場)

- 電力使用量の削減
- コークス使用量の削減
- 灯油使用量の削減
- 二酸化炭素排出量の削減
- 消石灰発生原単位削減
- 最終処分場延命化
- 溶融メタル回収量(Au 回収量)の向上
- 地域の環境保全イベントへの参画

※「水使用量の削減」;場内で使用する水は主に排ガス冷却設備(急冷塔)の噴霧水として地下水を使用しており、結果として噴霧水は蒸気として大気揮散している。また既に工場工程水や雨水を有効利用しているので、環境目標として設定しなかった。

「総排水量の削減」;工場から放流される排水は生活排水のみで、非常に少量のため、環境目標として設定しなかった。

(横須賀事業所)

- 都市ガス使用量の削減
- 電力使用量の削減
- 二酸化炭素排出量の削減
- 水使用量の削減

「二酸化炭素排出係数の根拠」

会社名	東京電力エナジーパートナー(株)
調整後排出係数	0.000456t-CO ₂ /kwh(環境省 令和 5 年版 排出係数を参照)
排出係数の区分	メニューJ(残渣)

別紙3 2022年度 環境目標の実績・評価

項目	環境目標		区画	摘要	単位	基準(BM)	目標				実績		
						2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2022年度	達成率	年度評価	
	処理量		本社工場	—	t/年	41,663	41,747	44,048	44,440	42,265	101%	—	
		横須賀事業所	—	6,323		11,001	18,251	19,000	10,674	97%	—		
省エネルギー	二酸化炭素排出量	電力使用による二酸化炭素排出量	本社工場	・稼働率アップによる効率の改善 ・場内LED化等による既存電力設備の使用電力量削減	t-CO2/年	2,117	2,127	2,146	2,166	1,917	111%	○	
				t-CO2/年(対BM)		10	29	49	-200				
			横須賀事業所	作業効率化	t-CO2/年	325	487	499	513	368	132%	○	
				対BM		162	175	188	-119				
		コークス使用による二酸化炭素排出量	本社工場	・稼働率アップ、日処理アップによる効率の改善	t-CO2/年	16,508	13,961	14,295	14,422	12,453	112%	○	
				t-CO2/年(対BM)		-2547	-2213	-2086	-4055				
		灯油使用による二酸化炭素排出量	本社工場	・稼働率アップによる効率の改善	t-CO2/年	6,909	5,028	5,110	5,155	5,208	97%	△	
				t-CO2/年(対BM)		-1881	-1799	-1754	-1701				
		都市ガス使用による二酸化炭素排出量	横須賀事業所	作業効率化 ボイラ発停回数の抑制 作業最適化	t-CO2/年	400	646	1,005	1,045	649	99%	△	
				対BM		246	606	645	3				
		二酸化炭素排出量合計 (CO ₂ が発生するすべての燃料)	本社工場小計 (軽油、ガソリン、LPG含む)	・上記の活動を通して削減	t-CO2	25,535	21,314	21,750	21,942	19,774	108%	○	
				t-CO2/年(対BM)		-4221	-3785	-3593	-5761				
			横須賀事業所小計 (軽油含む)	・上記の活動を通して削減	t-CO2/年	740	1,166	1,843	1,900	1,104	106%	○	
				対BM		426	1,103	1,160	-62				
		全社合計		・上記の活動を通して削減	t-CO2/年	26,275	22,480	23,593	23,842	20,878	108%	○	
				対BM		-3795	-2682	-2433	-5823				
環境負荷	資源物	水使用量	横須賀事業所	脱塩最適化水量の調整 F/P再利用水 無駄な水の使用削減	m3/年	27,040	43,335	54,375	66,500	38,992	111%	○	
				対BM		16,295	27,335	39,460	-4,343				
廃棄物	廃棄物の削減と リサイクルの推進	消石灰発生原単位削減	本社工場	・排ガス処理消石灰使用量削減	%	2.2	1.9	1.9	1.9	2.4	80%	△	
		最終処分場延命化	本社工場	・溶融再資源化による埋立量削減	t/年	39,145	41,048	58,793	59,316	38,267	93%	△	
	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	本社工場	・溶融メタル回収量(Au回収量)の向上	kg/年	97.1	85.5	84.0	84.7	58.3	68%	×		
環境に優しい製品・サービス	地域と連携した環境保全活動	本社工場 横須賀事業所	・地域の環境保全イベントへの参画 ・工場周囲、工業団地などの地域清掃活動や森づくり活動	人	60	36	30	30	48	133%	○		

達成
未達

5.環境目標の実績・評価及び次年度の取り組み内容

2022 年度の環境活動が終了し、取り組みの実績結果の評価を行いました(別紙 3)。

今年度の取り組み状況と次年度の予定は下記の通りです。

環境目標の取り組み状況と今後の予定

項目	環境目標		区画	今年度の取り組み状況		次年度の予定
				評価	2022年度	2023年度
	処理量		本社工場	—	今年度の本社工場は前年度から+1,960tで目標達成した。横須賀事業所の取扱量は、目標▲327tと目標未達であるものの事業拡大により前年度比160%と大幅な増となった。	本社工場の処理量は、22年度とほぼ同水準を計画する。横須賀事業所はさらなる事業拡大により22年度比+160%の18,000tを計画する。
省エネルギー	二酸化炭素排出量	電力使用による二酸化炭素排出量	本社工場	○	徐冷工程の設備の更新を行い、駆動部の削減及びエア駆動設備からモーター駆動へ変更したことにより電力使用量を削減した。	時間負荷量を向上させ、コンプレッサなど待機電力の削減を計画する。 事務所・厚生棟・分析室の照明設備をLED蛍光灯への変更を計画する。
			横須賀事業所	○	FP圧入量安定化(配管洗浄、凝集剤添加)による高負荷操業および環境集塵ファン風量調整により、原単位の低減につながった。	FP圧入量安定化では濾布交換目安明確化、塩酸洗浄による再生を実施し、さらなる高負荷操業を狙う。
		コークス使用による二酸化炭素排出量	本社工場	○	低コークス操業をテストし、溶融炉で使用するコークス比を▲20%削減した操業条件での運転を行うことでCO2排出量の削減の効果が得られた。 また将来のOC2削減を目的に代替燃料の製造・使用のテストを開始した。	低コークス操業による環境負荷品質面への影響があったため、前年度より+15%程度使用量増でCO2排出量と廃棄物発生量など他の項目とのバランスの調整を行う予定。 バイオ由来の燃料の製造およびそれらの使用に関する研究を計画する。
		灯油使用による二酸化炭素排出量	本社工場	△	2次燃焼室のパーナーで使用する燃料を灯油から廃棄物由来の燃料を使用できるよう設備を追加した。設備導入時期ずれ等が生じ目標は未達となったが、8月から運用開始し灯油使用量を削減した。	乾燥設備の保温施工により放熱量を削減してボイラーで使用する灯油使用量の削減を計画する。 廃熱を活用し、空気予熱器の燃料使用量削減する設備の設計を計画する。
		都市ガス使用による二酸化炭素排出量	横須賀事業所	△	FP圧入量安定化(配管洗浄、凝集剤添加)による高負荷操業により、原単位の低減につながった。ポンプトラブル時の処置時間も短縮。	FP圧入量安定化では濾布交換目安明確化でさらなる高負荷操業を狙う。乾燥以降のコンベアの日常点検と腐食に対する対策実施。
		二酸化炭素排出量合計(CO ₂ が発生するすべての燃料)	本社工場	○ ○ ○	コークス使用量の低減が大きく寄与することで二酸化炭素排出量の削減は、目標を達成することができた。	コークス使用比率は、22年度と比較して増えることで二酸化炭素排出量の増が見込まれるが灯油、電力由来の二酸化炭素排出量削減の改善に取組目標達成を目指す。
環境負荷	資源物	水使用量	横須賀事業所	○	FP圧入量安定化(配管洗浄、凝集剤添加)による高負荷操業により、原単位の低減につながった。	残渣率低減のため、ケーキ洗浄条件の最適化を図る。重金属負荷は原料調査で標準化し、水原単位を抑制。
廃棄物	廃棄物の削減とリサイクルの推進	消石灰発生原単位削減	本社工場	△	低コークス操業による排ガス負荷の増により消石灰使用量およびバグ灰の数量が増加したため、発生量が大幅に増えた。また灰のリサイクル先の受け手制限により、リサイクル向け出荷量が大幅に減ることで埋処分量が大幅に増加した。	低コークス操業による環境負荷のバランスを考慮して消石灰使用量を削減を計画する。 横須賀事業所を活用して、洗浄等による減量化で埋処分量の削減を計画する。 灰のリサイクル向けの操業条件をテストする。
		最終処分場延命化	本社工場	△		
環境に優しい製品・サービス	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮		本社工場	×	原料構成の変化、および操業条件の変更、設備更新に伴い金の回収率が低下したが、設備更新に伴う損失分の改善に伴い、下期以降回復傾向となった。	原料構成の見直し、工程内で発生している損失分を回収するための設備を導入して金の回収量の増加を計画する。
	地域と連携した環境保全活動		本社工場 横須賀事業所	○	逗子市や藤沢市の環境フェアに出展した。希望の森整備活動、本社工場周辺のごみ拾い活動、横須賀事業所周辺の草刈りを行った。	コロナの影響で中止されていた地域イベントが再開すると予想されるため積極的に参加する。希望の森整備活動、地域清掃活動も引き続き計画する。

6. 活動実施状況の紹介

《出展と展示》

溶融事業を広く紹介するために各自治体主催の環境フェアへの出展を行っています。残念ながら、新型コロナウイルスの影響で中止になったものも多くありましたが、2022 年度は、各自治体(逗子市)の意向に沿った形でパネルを出展しました。

《環境フェアの出展》



《本社工場の環境活動》

地域貢献として、メルテック希望の森の整備活動、工業団地周辺の清掃活動を継続して行っており、少しずつ改善されていることを感じています。2023 年度はコロナも少し緩和されイベントも増えてきているので引き続き継続して貢献していきます。

《メルテック希望の森の整備活動と工業団地周辺の清掃活動》



《横須賀事業所の環境活動》

横須賀事業所前の道路の除草作業を対応しました。当該道路は横須賀市の管轄ですが、担当者からは感謝の連絡を頂きました。お礼代わりとして、市の清掃担当の方が来社され、掃除後のゴミ袋を回収処分頂きました。今後も継続して実施していきます。

《横須賀事業所前歩道部、除草活動の様子》



7. 訓練実施の様子

《本社工場の訓練実施の様子》

2022 年 5 月本社工場安全大会にて、従業員向けに日ごろの活動に関する表彰と話し合いほか、熱中症対策・停電時訓練を実施し、有事に備えるようにしています。また、それぞれの小集団活動取り組みについての報告会しました。合わせ、当社の事業活動を報告し、社会環境に対して私たちの事業がどのように貢献しているのかを周知しました。

《熱中症対策の様子》



《停電時訓練の様子》



2022 年 10 月は、漏洩訓練の緊急事態訓練を各班で実施しました。漏洩時の応急対策、緊急連絡訓練、回収作業の対処法などを実施しました。この訓練で出た意見をもとに組織や緊急連絡網の見直し、発見時の対処、状況説明の追加、対応検討などを行い、次年度以降も訓練を継続していきます。

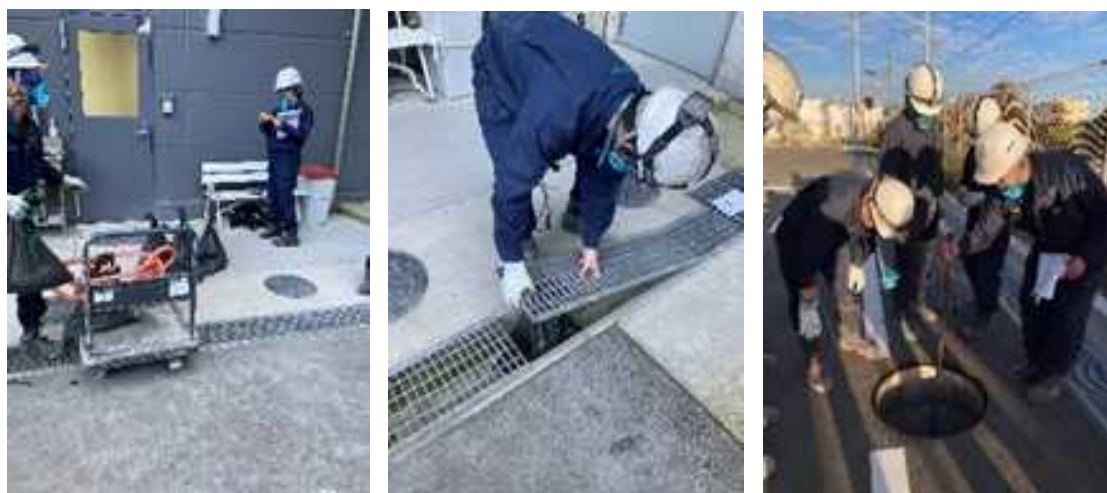
《漏洩訓練の様子》



《横須賀事業所の訓練実施の様子》

2022 年 10 月の横須賀事業所の安全大会内に、排水漏洩訓練をおこないました。排水漏洩時の想定で連絡、対処方法を 2 班で交代しながら実施しました。まずは検知の方法、処置、系外への流出防止方法を実際に動きながら確認しました。不備事項(土嚢、マンホール位置、締め時具置き場)も散見され、今後の改善の機会となりました。今後も定期的に訓練を実施する予定です。

《排水漏洩訓練の様子》



2023 年3月横須賀事業所は、海に近いこともあり、BCP 訓練(津波想定時)を実施しました。想定されるリスク、避難ルートを確認しました。当日は雨であったため、避難ルートは車で周知確認しました。後日、実際に歩いてみて、ルートを決定しました。被害予想まで時間がある場合は、ばいじんの流出リスクがあるため、工場内の防潮堤の設置訓練も行いました。ただ、防潮堤は 4 箇所必要で、5 名掛かりで設置に 1 時間程度かかり課題が残りました。

《BCP 訓練(津波想定時)の様子》



7.環境関連法規等の遵守状況確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

環境関連法規等の遵守状況の確認は、環境管理委員会にて毎月確認実施しました。また、2回/年遵守評価実施しました。確認結果として、法規制等への違反はありませんでした。

訴訟の有無については、全社 2023 年 3 月 31 日時点ありません。

《該当、環境関連法規》	小山	横須賀
・廃棄物の処理及び清掃に関する法律	○	○
・大気汚染防止法	○	○
・水質汚濁防止法	○	○
・騒音規制法	○	○
・計量法	○	○
・毒物及び劇物の取締法	○	○
・フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律	○	○
・化学物質排出把握管理促進法	○	○
・PRTR 制度	○	○
・エネルギーの使用の合理化等に関する法律	○	○
・土壌汚染対策法	○	○
・オフロード法	○	○
・労働安全衛生法	○	○
・消防法	○	○
・放射性物質汚染対処特措法	○	○
・特定工場における公害防止組織の整備に関する法律	○	—
・ダイオキシン類対策特別措置法	○	—
・栃木県公害防止条例(騒音・振動)	○	—
・栃木県廃棄物処理指導要綱	○	—
・とちの環エコ製品認定制度	○	—
・小山市環境保全に関する協定書	○	—
・小山市一般廃棄物搬入処分に関する協定書	○	—
・優良産廃業者認定制度	○	—
・製造物責任法	○	—
・浄化槽法	○	—
・横須賀市下水道条例	—	○
・横須賀市除害施設等取扱要綱	—	○

8.代表者による全体評価と見直しの結果

当社の環境経営システムは、有効に機能していると評価する。環境経営方針に沿った本業を通じての資源循環型社会構築を目指し、かつ、事業活動に伴う環境負荷軽減を継続的に取り組んでいる。

2023 年度も 2022 年度同様にシステム全体の継続的改善を図ってもらいたい。横須賀事業が軌道に乗りつつあり、環境側面に見落とし等がないか確認のこと。また、文書管理も応急的な状態が散見される(重複や不明確等)ので、徐々に改善を図ること。

循環型社会形成と CO2 軽減化は外部環境中でも注目されている点であり、当社の強みや課題とも直結している。これらに関連する項目は、環境活動に継続的に組み入れ取り組んでいく。

2022 年度 CO2 排出量 4,657t/年削減(対 21 年度、約 18%↓)と良好な結果であった。他方、未達成目標もあるので、23 年度も継続的に取り組み、更なる改善を期待する。

資源循環視点では、「溶融メタル中の Au 回収量向上」の施策が芳しくなかった。CO2 削減策と資源循環施策が二律背反/トレードオフ状態であるが、2022 年度に得た知見や試験結果等で、最適化を追求することを期待する。

環境関連法規への適合と外部苦情ゼロは非常にいい状態である。教育や訓練は定期的を実施しており個別訓練では課題が抽出されている、これらを継続的に改善していこう。内部や外部監査等での是正や予防は改善できていると判断するも、同じ問題点が繰り返されることないよう対策徹底や水平展開をおこなうように。

最後に、実施体制では現地採用社員での長期的視点を持った主体的システム運営が望まれるため、その準備を徐々に進める。

メルテック株式会社
代表取締役常務
鈴木智也

代 表 者 に よ る 全 体 評 価 ・ 見 直 し	見直し項目	変更の必要性	変更(有)の場合の指示事項
	1 環境経営方針	☐ 有 ☒ 無	
	2 環境目標	☐ 有 ☒ 無	(変更ではないが、緊急事態のレビューを残す事)
	3 環境経営計画	☐ 有 ☒ 無	
	4 環境に関する組織(実施体制)	☐ 有 ☒ 無	品質技術課小島さんの将来的な環境管理責任者若しくは EA21 事務局となるよう
	5 その他(外部への対応)	☐ 有 ☒ 無	必要に応じ会議体等への出席を実施していく事)

2023 年 4 月 26 日 ・トップマネジメントレビュー実施